

令和2年度

# 日和佐中学校 「学力向上実行プラン」

## 学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎的・基本的な知識・技能を習得し、生徒の主体的な学習を促す授業の実践
- 言語活動の充実を図り、思考力を高め、自己表現力・コミュニケーション能力を高める授業の実践

## 学力向上検討委員会構成

- |                                    |   |   |
|------------------------------------|---|---|
| <b>学力向上推進員</b><br>坂部 美枝<br>(図書館教育) | <b>委員</b><br>・校長(総括): 向原敬夫<br>・教頭(総務): 龍田雅和 | ・進路指導: 蛇目達男<br>・環境教育: 東明啓子<br>・研修主任: 田内茂美 |
|------------------------------------|---|---|

校長

向原 敬夫



### ◎次の(1)~(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観やオープンクラス等、さまざまな機会を捉え、取組状況の把握を行う。

#### (1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能を習得するための課題にまじめに取り組むことができる生徒が多い。 ●授業や課題にはまじめに取り組んでいるものの、基礎・基本が定着していない生徒がいる。	・学習の過程を通して習得した知識・技能を、他の学習や生活の場面で活用することができる。 ・毎日の宿題や課題を確実にやり切ることができる。	・定期テスト前に基礎・基本の小テストを実施し、不合格者には再テスト等で粘り強く基礎・基本の定着を図る。 ・生活記録指導において、語彙力と作文力を身につけさせる。	・基礎・基本を振り返る機会を増やすとともに、小テスト等の取組を強化し、個々に応じた知識・技能の習得を図っていく。また、語彙力や作文力を高めるために、生活記録指導を継続して行う。	・各教科の授業において小テスト等を実施したことで基礎・基本を振り返らせる機会を多く取ることができたが、家庭学習では生徒進んで学びを深めることは十分ではなかった。 ・生活記録指導で作文力は身に付きつつあるが、語彙力の向上は不十分であった。	・身に付けた知識等を他の学習や生活の場面で活用する機会を設け、主体的・対話的で深い学びにつなげる実践を行う。 ・語彙力を向上させるために言葉カレンダーを作成したり、クイズ形式で言葉を紹介したりする等、様々な言葉を知る機会を増やす工夫が必要。

#### (2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○興味や関心がある学習内容について、自ら考えて豊かに表現することができる生徒が多い。 ●話すこと・書くことやテスト等の記述問題・応用問題に対して苦手意識が強く、無回答率の高さに課題がある。	・目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えをわかりやすく話したり書いたりすることができる。 ・探求的で粘り強く課題に取り組む、深い思考力や豊かな表現力を身につけることができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設け、思考や考察の過程における言語活動を充実させる。 ・ICT等を効果的に活用し、視覚的に内容を理解させ、生徒が興味をもち自ら考えてみようとする授業を創造する。	・ペア学習やグループ学習等で、互いの意見を発表し合う機会を多く取り入れることで、自分の意見をより深めていく。さらに、友だちの意見を判断力や表現力の参考にできるよう指導助言を行う。	・ペア学習やグループ学習の機会を適切に設定することができた。さらに、ホワイトボードを使用した話し合い活動を実施することで、言語活動が活発に行えた。 ・帰りの学活でスピーチをしたり、さわやか集会などで意見を発信する機会を設けることで、自分の思いを伝えることの充実感を得た。	・グループ学習等での話し合い活動の流れを各教科・学年で統一できる場所はするなど、より効果的な実践を継続して行う。 ・深い思考力や豊かな表現力を身に付けさせるための授業計画の改善を進め、さらなる育成を図る。

#### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた役割や課題に真面目に取り組むことができ、宿題等の提出率も高い。 ●授業に対して受け身の姿勢の生徒が多い。また、自分から課題を見つけて学習することに課題がある。	・課題や自主学習に積極的に取り組み、学ぶ楽しさや喜びを感じることができ、自信をもつことができる。 ・自分の学習状況をしっかりと振り返り、家庭学習に意欲的・計画的に取り組むことができる。(「家庭学習の記録」の活用)	・生徒の主体的な活動や体験を授業に多く取り入れ、何を・どのように学ぶのが伝わるように、授業のめあてを提示する。 ・「家庭学習の記録」を記入させ、毎日目を通し、必要な支援を行う。	・「家庭学習の記録」を活用した自主的な家庭学習を徹底させるために、1年生では日課表を作成させ、主体的に課題に取り組めるように学習課題の習慣を身につけさせる指導助言を継続する。	・「家庭学習の記録」を活用することで、学習状況を振り返ることができた。 ・1年生では日課表を作成させることで学習時間の意識づけや学習課題の習慣が身に付いてきた生徒が増えてきたが、まだ十分ではない生徒もいる。	・自分で課題を見つけて取り組もうとする意欲に欠け、指示待ちの姿勢にある生徒が少なくない。個々の能力に応じた目標を立てさせ、達成感や自信をもたせるとともに、将来に目を向けた目標設定ができるように進路指導やキャリア教育を計画的に行う。

## 令和2年度 学力向上ロードマップ



